

Press Release

平成25年2月13日

県内における重症熱性血小板減少症候群患者の発生について

県内において、重症熱性血小板減少症候群(Severe fever with thrombocytopenia syndrome:SFTS)の患者が確認されました。

SFTSは、SFTSウイルスに感染することによって引き起こされる病気で、今回の症例に係る詳細な感染経路は不明ですが、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染するとされています。

感染予防対策としては、マダニに咬まれないようにすることが重要ですので、草むらや藪など、マダニが生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくするようにしましょう。

1 患者の概要

- ・患者：成人男性、県内在住。山に行くことはあったが、時期や場所は不明。海外渡航歴なし。
- ・経過：昨年の秋、次のような症状が出現し、死亡。
- ・症状：発熱、頭痛、消化器症状(下痢、下血)、食欲不振、全身倦怠感、筋肉痛。
マダニによる刺し口なし、発疹なし。

2. 患者確認に至った経緯

平成25年1月30日 厚生労働省からSFTSの情報提供及び協力依頼あり。

※情報提供を求める患者の要件

1月31日 主治医から、つつが虫病疑いで県衛生環境研究所に検査依頼した患者について、SFTSの要件にある症状と血液検査所見が合致するという情報提供あり。(つつが虫病・日本紅斑熱の原因となるリケッチアは確認されていない)

2月1日 厚生労働省に情報提供。

2月5日 衛生環境研究所保存の検体を国立感染症研究所に送付。

2月12日 SFTSウイルスであることが確定された。

※38度以上の発熱と消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血のいずれか)を呈し、血液検査所見で血小板減少(10万/mm³未満)、白血球減少(4000/mm³未満)及び血清酵素(AST、ALT、LDHのいずれも)の上昇が見られ、集中治療を要する、若しくは要した、又は死亡した者。ただし、他の感染症によること又は他の病因が明らかな場合は除く。

3 重症熱性血小板減少症候群について

(1) 発生状況

平成23年に初めて特定された、SFTSウイルスに感染することにより引き起こされる病気で、中国では7つの省で症例が報告されている。

ウイルス自体は以前から国内に存在していたと考えられるが、平成25年1月に山口県において、初めて患者が報告されている。

(2) 感染経路

多くの場合、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染している。

インフルエンザのように容易に人から人へ感染して広がるものではないとされている。

(3) 症状

マダニに咬まれてから6日から2週間程度の潜伏期間を経て、主に発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が出現する。

時に頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状(咳など)、出血症状(紫斑、下血)を起こす。

(4) 感染予防方法

マダニに咬まれないようにすることが重要。

- ・草むらや藪など、マダニが生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくする。
- ・屋外活動後はマダニに刺されていないかを確認する。
- ・吸血中のマダニを見つけた場合は、できるだけ医療機関で処置する。
- ・マダニに咬まれた後に、発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診する。

(出典：「重症熱性血小板減少症候群に関するQ&A」厚生労働省)

(お問い合わせ先) 福祉保健部 健康増進課感染症対策室 感染症対策担当
担当者：永野、長友、本井、佐多 電話：0985-44-2620 (内線 2494)